

浜松と医学のストーリー～浜松近代医学の聖地～

約4.6km 約1.5時間 約280kcal

※所要時間に見学時間は含まれていません。

1860年代 浜松城主・井上家の地図
(江戸時代のものは赤字、現代のものは黒字で表記)



⑥石川倉次の碑



⑤菩提寺／人体解剖発祥の地



④法雲寺／水あらい地蔵



③心造寺



②浜松医学校跡(浜松復興記念館)



⑧浜松城



①市民の木

①市民の木

戦災で枯れ死寸前となった
プラタナスを地元民の努力
によって再生。昭和39年に
「市民の木」と命名された

②浜松医学校跡 (浜松復興記念館)

浜松医学学校長・太田用成ら
が米国の医学書を翻訳し、
日本初の西洋医学書を出版。
解剖、生理、化学、薬学、
内科、外科、産科の7科
で「七科
約説」と
名付けた



浜松市博物館蔵

③心造寺

徳川秀忠を産んだ西郷の
局が開いた寺。現在、遠江
四十九薬師の二十二番札所
で、目の治療にご利益があ
るとされている

④法雲寺／ 水あらい地蔵

藩校の「経誼館」「克明館」
の跡に旭町から移転。東側
に若槻礼次郎書、昭和6年
建立の記念碑「偉大も協力
一致之功」がある。境内に
ある水あらい地蔵に水をか
けて患部と同じ部分をなで
ると、治るといわれている



web上で当コースを
ご覧になる場合は、
こちらからご覧ください。

⑤菩提寺／ 人体解剖発祥の地

家康の甥・松平忠頼が両親の
冥福を祈るために開いた。菩
提寺には浜松で最初の人体解
剖に遺体を提供した長谷川直
盛(士族)と藤井仙十の墓が
ある

⑥石川倉次の碑

日本点字の考案者。安政6
年、現在の鹿谷町で生まれ、
31歳のときに点字選定会で
石川倉次の案が採択された。
11月1日は点字の日

⑦作左の森

本多作左衛門は大正3年、長
篠の戦いの陣中から、ここに
居住していたであろう妻子の
健康を気遣って「一筆啓上 お
仙泣かすな 馬肥やせ」の手紙
を送った

⑧浜松城

徳川家康が17年間居城。
食事は玄米食に大豆味噌を
中心とした粗食で、薬は自
ら調合したといわれる

⑨魚がし跡

魚屋や乾物屋などが立ち並
び、お城の台所として栄え
た。近くにある大安寺の西
の市では、美容と健康に良
い甘酒が振る舞われる